北京週報e刊
japanese.beijingreview.com.cn
2011.12.1
12月号

9億人が参加する
人民代表大会代表選挙

CONTENTS 目次

4 フォトニュース

トップ記事

8 9億人が参加する人民代表大会代表選挙

中国と日本

12 中日アニメ比較で見る国産アニメの発展

16 笑顔の中国人女性みな美人

P16

P8

政治

23 民主の礎、末端レベル選挙

経済

24 中米間の人民元レート争いの経緯

28 「中国は金融緩和すべき」IMF専務理事発言に国内専門家が反論

社会

29 世界人口が70億突破 各国の「人口問題」

P31

P26

19 広島大学北京研究センター 日本語作文スピーチコンテストが開催

国際問題

20 中国とASEANの経済貿易協力 その成果とチャンス、前途

話題の人

32 藤間万恵氏 中国で日本舞踊を伝える文化交流使

P32

カルチャー

34 大人も子供も絵本を読んで文化の振興を

37 工業都市・唐山の文化産業推進

40 灤州古城 唐山灤県が進める一大文化産業プロジェクト

P38

北京週報e刊
japanese.beijingreview.com.cn

『北京週報』日本語版は1958年、故·周恩来総理の提案により創刊された海外向け週刊誌です。ネット版には中、英、日、仏、独の５カ国語版があります。

主管　中国外文出版発行事業局
社長・編集長　王剛毅
常務副編集長　江宛棣
副社長　亓文公
副編集長　李建国　黄　衛　王燕娟　周建雄
社長補佐　李振宙
編集長補佐　丁志濤

編集統括　李建国　黄　衛
編集委員会　李建国　黄　衛　張毓英　陳　煒　胡　楠　呂　翎
責任編集者　陳　煒
編集・翻訳　夏祖芬　楊　莉　繆暁陽　勝又あや子
記者　蘭辛珍　唐元愷　呂　翎　陳　姌　繆暁陽　王文捷　徐　蓓　曽文卉
写真編集　石　剛
レイアウト　盧一凡
日本語監修　勝又あや子

北京週報ネット版編集部
〒100037　中国北京市百万荘大街24号北京週報
TEL　86-10-68326018　68996238
FAX　86-10-68326628
URL　http://japanese.beijingreview.com.cn/
E-mail　jp@bjreview.com.cn

編集室
TEL　86-10-68996252
北京週報北米支社
記者　陳　文
TEL/ FAX　1-201-792-0334
E-mail　chenwenwendy@gmail.com

国際コーディネーター　潘双琴
法律顧問　岳　成
京ICP备08005356号

このウェブマガジンの著作権は北京週報社にあります。掲載された記事、写真の無断転載を禁じます。

« 温家宝総理は１１月７日、ロシアのプーチン首相とサンクトペテルブルクで会談し、中ロ関係、その他関心を共有する重要な問題について踏み込んで話し合い、広範な共通認識にいたった。　（姚大偉撮影）

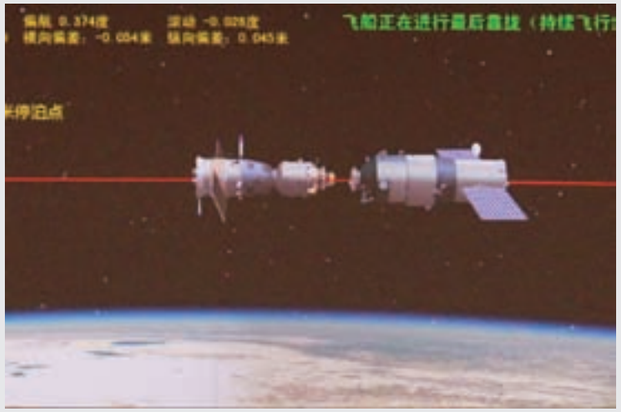
» 温家宝総理は１１月２３日、日本の玄葉光一郎外相と中南海・紫光閣で会談した。温総理は「日本側と共に努力して両国関係の新たな進展を促し、中日国交正常化４０周年を迎えたい」と表明した。
（劉衛兵撮影）

» 胡錦濤国家主席は１１月１２日、米ハワイ州の州都ホノルルで日本の野田佳彦首相と会談した。両首脳は中日関係その他共通関心事について意見交換し、両国の戦略的互恵関係を引き続き深化させることで一致した。
（張鐸撮影）

« 温家宝総理は１１月１９日、インドネシア・バリ島で中日韓首脳会議に出席し、韓国の李明博大統領、日本の野田佳彦首相と中日韓協力および世界や地域の共通関心事について意見交換した。
（謝環馳撮影）

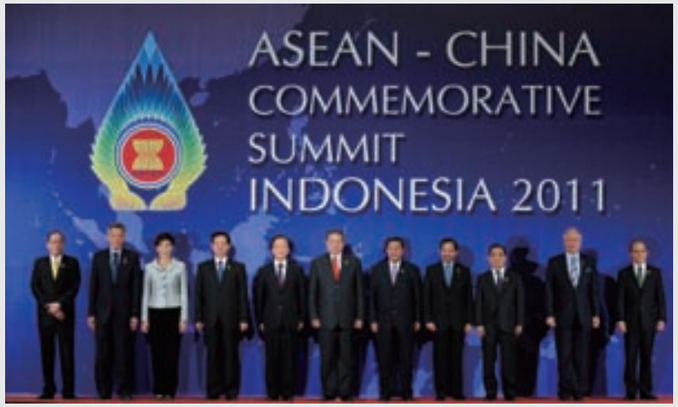
« １１月８日、北京市東城区桃楊路楊家園の投票所で区人民代表大会の代表の選挙に参加する人たち。（李文撮影）

» 第６回中国北京国際文化創意産業博覧会（北京文博展）が１１月１０日、国際展覧センターで開幕した。写真は入り口で来場者に呼びかける老舎茶館の従業員。（趙氷撮影）



» １１月３日午前１時半、無人宇宙船「神舟８号」と９月末に打ち上げた無人実験機「天宮１号」のドッキング実験が成功した。

« 中国文学芸術界連合会の第９回全国代表大会と中国作家協会の第８回全国代表大会が１１月２２日午前に人民大会堂で開幕した。（劉建生撮影）



» 温家宝総理は１１月１８日、インドネシアのバリ島で開催された第１４回東南アジア諸国連合（ＡＳＥＡＮ）・中日韓（１０＋３）サミットに出席し、演説した。（王曄撮影）

» 胡錦濤国家主席は１１月１３日、米ハワイ州の州都ホノルルで開催されたアジア太平洋経済協力会議（ＡＰＥＣ）の第１９回首脳会議に出席し、重要演説を行った。（黄敬文撮影）

９億人が参加する 人民代表大会代表選挙

本誌記者　唐元愷

中国の憲法と選挙法の規定では、法により政治権利が剥奪されていない限り、満１８歳以上の公民であれば、民族や種族、性別、職業、出身家庭、宗教信仰、教育程度、財産状況、居住期間に関わらず、選挙権と被選挙権を有する。

２０１１年１１月８日、北京市西城区中南海選挙区の人民大会堂投票所で行われた北京市区県人民代表大会代表選挙の投票に向かう有権者　（劉衛兵撮影）

１１月８日、北京の高校３年生の劉子晗さんは１８歳の誕生日を迎えた。この日はちょうど北京市の区・県、郷・鎮の人民代表大会代表選挙の投票日。劉さんは金融街金五選挙区の投票所で人生初の選挙票を投じた。

中国の憲法と選挙法の規定では、法により政治権利が剥奪されていない限り、満１８歳以上の公民であれば、民族や種族、性別、職業、出身家庭、宗教信仰、教育程度、財産状況、居住期間に関わらず、選挙権と被選挙権を有する。

政府筋の統計によると、北京の今回の改選選挙の登録有権者は１６の区・県合計で９３７万５０００人。うち９１０万の有権者が７３９９の選挙区の投票所１万２７８４カ所（他に一部の機関部門や投票所に行けない高齢者や身体障害者などの家への移動投票箱もあった）で無記名投票が行われた。全市の投票率は９７％で、北京市の最近３回の改選選挙のうち最高となり（２００３年は９５・３％、２００６年は９６・３６％）、区・県人民代表大会代表４３４９名と郷・鎮人民代表大会代表９９３１名が選出された。

今回の県郷人民代表大会代表改選選挙は昨年改正された新しい『選挙法』公布施行後に初めて行われる選挙である。これまでとは異なり、「都市・農村同一人口比例選挙」が開始され、これが今回の選挙最大の注目点とされている。

候補

１１月１日、北京市朝陽区呼家楼の住宅の入口に、この選挙区の正式な候補者４人の氏名、年齢、党派、学歴、勤務先などの基本情報が書かれたピンクの紙が張り出された。中国『選挙法』の規定では、人民代表大会代表の正式候補者名簿と基本状況は、選挙日の７日前に公示されることになっている。

呼家楼のこの名簿には、予想通りこの地域の住民におなじみの殷金鳳さんの名前があった。北京の居民委員会主任で唯一２００５年の「全国労働模範」に選ばれた殷さんは、２０００年から、その担当部門は１０年連続で「北京市先進社区居民委員会」に選ばれた。「もちろん、みんな殷金鳳を選ぶよ！」、「殷さんは一番信頼できる『身内』だからね！」８日の早朝、投票所に集まった有権者の多くがまったく包み隠すこともなくこう言った。ある８０歳を超えたお年寄り（男性）は、「殷主任が公開している携帯電話と家の電話は『空き巣老人』（独居老人）にとって困った時のホットラインになっていて、電話をかければ２４時間いつでも来てくれる」と言う。「それに殷さんは学校と

中央人民政府委員会は１９５３年２月１１日午後、第２２回会議を開催した。会議では、鄧小平（右から１番目）が中華人民共和国全国人民代表大会及び地方各級人民代表大会選挙法についての説明報告を行った

６月２０日、人民代表大会代表候補者との交流会で、挙手して質問する湖南省沙洲壩村選挙区の有権者（高学余撮影）

（右から）
２０１１年１１月８日、北京市西城区老墻根広安東里選挙区の投票に向かう孫東華さん（左）と李竜泉さん　（羅暁光撮影）

１０月２８日、北京西城区老墻根広安東里選挙区で有権者に有権者証を配る選挙グループ長の陳桂香さん（右から３番目）（羅暁光撮影）

２０１１年１１月２日、北京石景山区八角北里選挙区の人民代表大会代表候補者と有権者との対面会で、有権者の質問に答える王玉娟さん　（新華社）

連絡を取って、特にお金に困っている住民約８０人のために再就職のための職業訓練の機会を作り、１人１人仕事を世話してくれた」。こう当時を回想するのは、殷さんに仕事を世話してもらったうちの１人だ。多くの有権者にとって、殷さんは居民委員会主任としても代表としても、いつでも「民衆の意見」に耳を傾け、「民衆を代弁」し、住民の望みを把握して、積極的に住民の難題を解決してくれる存在だ。

多くの有権者が、殷さんを通じて人民代表大会代表の忍耐強さと能力を目の当たりにし、代表は確かに力を発揮できるということを信じられるようになった。長くここに住む過逸さんは言う。「この地域は、弱者に手が差し伸べられ、矛盾や問題を解決するために連携するコミュニティーになった。殷代表がそれに果たした功績は大きい」。

対面

１１月２日午前、北京八角北里社区サービスセンターでは、石景山区選挙委員会人民代表大会代表の正式候補者と有権者の交流会が行われ、４００平方メートル近くあるホールにあふれるほどの人が詰めかけた。

会場には他地域から参加した住民もいた。そのうちのある元教員は、「これまでは対面する機会がなく、有権者と候補者は誰が誰かも分からず、誰を選び誰を選ばないかを決めるのは『当てずっぽう』だった。単に名前や勤務先、職務、同僚の短い紹介（これすらないことが多かった）を頼りに適当に名前を書いて終わりで、本来なら真剣であるべきの選挙が賑やかな『うわべだけのイベント』になってしまっていた」と言う。今年６６歳になるこの元教員は何度も末端レベル人民代表大会代表選挙に参加したことがあるが、候補者が学校関係者だった２回を除いて、他の候補者は一度も会ったことがない人ばかりだったという。「今回はいいよ。去年選挙法を改正した際に法が整備され、有権者が候補者をあまり知らないという問題について法的に明確になった。有権者が候補者との対面を要求した場合、選挙委員会は関連活動を開催して、代表候補者が自分の状況を説明し、有権者の質問に答えなければならなくなった」。

９時３０分、八角第三選挙区の候補者４人が登場し、有権者に対し自分の仕事状況と当選後の抱負を１人ずつ述べた。その後は「面接」段階へと進んだ。隣近所どうしでいつも顔を合わせている間柄ではあるが、有権者たちはまったく遠慮なく質問し、質問内容は多岐にわたり、納得できない回答に対してはとことんまで問い出した。

北京などの選挙委員会では具体的な規定を作り、代表候補者と有権者との対面会を行っている。広州では、全部で４５６９名の区・県級市人民代表大会代表候補者と４３７６名の鎮人民代表大会代表候補者が対面会に臨んだ。「山西省や江西省など選挙がほぼ終了した省や自治区の状況からすると、選挙委員会が法に基づいて企画した候補者と有権者との交流会が全国範囲で広く行なわれ、改正後の新選挙法の関連規定が着実に実行されるようになった」と何曄全人代常務委員会副秘書長は語る。

都市・農村人口同一比率

昨年３月、第１１期全国人民代表大会第３回会議で選挙法改正に関する決定が可決され、全国人民代表大会代表の定員が明確になった。全国人民代表大会常務委員会は、各省、自治区、直轄市の人口に応じて、１人の代表が代表する人口数を都市と農村とで同一にする原則と、各地区、各民族、各方面における適切な代表人数を保証するべきとの要求に従って、配分を行った。

「都市と農村の同一人口比率による人民代表大会代表選挙で、選挙区分が調整され、都市部の選挙区が減り、農村の選挙区が増え、農村選挙区選挙で選ばれる代表数が適切に増え、それに伴って末端レベル代表の数も増える。これは代表構成比率の改善に役立つ」。江西省人民代表大会常務委員会選挙任免連絡業務委員会の呉会清主任は言う。

一方全国９億の農民にとっては、参政・議政の道が明らかにスムーズになり、県・郷級人民代表大会の中で自分たちに身近な代表の割合が大きく増え、農民の利益を代表する発言権もこれに伴って増えることになる。

現在、中国の都市と農村の多くでますます「一体化」が進み、利益構造の本質的な調整が始まっている。「『郷』の範囲は、農民や『元農民』のほかにも、都市部からの移転住民、その土地以外からの出稼ぎ労働者など大量の外来人口が流入したことで、人口構造がますます複雑になってきた。これについて中共北京市朝陽区来広営地区機関業務委員会の張克斌書記は、「資質が高く、代表する範囲の広い代表を選ぶことが、来広営地区の農村から都市部への転換の鍵となる」と言う。来広営郷政府人民代表大会の宋国華主席は「今回の選挙は、来広営地区で初の都市住民意義を持つ選挙だと言える」と指摘している。

選挙の流れ

中国の末端レベル人民代表大会代表はどのように生まれるか？

★ 有権者登録と有権者証の発行・受領（満１８歳以上の中華人民共和国公民は選挙権を有する）

★ 代表候補者の指名・推薦

① 各政党人民団体が共同または単独で代表候補者を指名

② 選挙区有権者１０人以上が代表候補者を指名

★ 正式代表候補者の検討と確定

★ 正式代表候補者名簿の公示

★ 選挙日に選挙区有権者が無記名投票

中日アニメ比較で見る国産アニメの発展

アニメーション産業は中国で最も発展潜在力のある新興産業の1つで、中国政府が重点支援の対象としている文化産業でもあり、現在新たな経済成長ポイントになりつつある。アニメ大国である日本にはすでに整った産業チェーンが出来上がっており、アニメ作品の市場成功率は高く、アニメ産業はすでに日本の第3の産業にまで成長した。日本などの成功経験から学び、自国のかつての輝かしい経験を総括することは、中国アニメ産業の飛躍に現実的な意義がある。

中日両国アニメ発展史概略

万籟鳴、万古蟾、万超塵に代表される中国アニメーター第1世代は、1922年に最初の広告アニメ作品『舒振東華文打字機』（舒振東の中国語タイプライター）、1926年に最初の民族的特色を持つアニメ作品『大鬧画室』（アトリエ騒動）を制作した。1942年9月に完成した長編アニメ作品『鉄扇公主』は、当時『白雪姫』に次いで世界で2番目に発表された秀れた長編アニメ作品で、国内外で大きな反響を呼び、中国アニメは第一次黄金期に入った。しかし残念ながら、当時の中国アニメがその後産業という形で発展することはなかった。

日本のアニメーションは中国より若干早くスタートを切った。最初は世界の名著を題材にしていたが、第二次世界大戦後は反戦をテーマにしたものが現れ、その影響は現在に至るまで続いている。1947年、手塚治虫は漫画に映画撮影手法を数多く取り入れて「新漫画」（ストーリー漫画）を切り開き、現代日本アニメ産業モデルを作り上げ、「漫画の神様」、「日本現代漫画の父」と呼ばれた。その700を超える作品のうち最も有名なのは『鉄腕アトム』である。

宮崎駿作品『となりのトトロ』の扮装をする日本人留学生　（李尕撮影）

中日アニメ比較

ある中日アニメ比較に関するインターネット調査によると、多数の人が「日本アニメは教育的意義と民族の特色においては中国アニメに及ばないが、制作技術面ではキャラクターデザイン、画像作成、活き活きとしたストーリー、主題曲の創作のいずれにおいても中国より上だ」と考えていた。

日本アニメは線と色を重んじ、鑑賞性の面で完成されている。一方中国アニメがより重視しているのは物語がおだやかな結末を迎えることである。

2度の文明開化を経たため、日本文化には2つの全く異なる文化がある。1度目の文明開化は「大化の改新」による「唐化」、2度目は「明治維新」による「欧化」である。「唐化」とは、中国の唐の文化によっておこった変化のことだ。唐王朝は尚武の精神を持ってはいたが、侵略性は伴わなかった。唐王朝が衰えると、日本文化は知らず知らずのうちに変わり始めた。近代になって欧州が帝国主義時代に入ると、外部への拡張性の強い文化が日本文化の中で膨らみ始め、日本の「大和魂」意識が強まった。これが「欧化」である。

「唐化」により日本には天皇を中心とした統一理念が形成され、民族意識と神

１０月３０日、北京石景山区中国動漫遊戯城（アニメ・コミック・ゲームシティー）で行われた第１２回世界漫画大会ポスター前で記念写真を撮る来場者　（李文明撮影）

兵庫県宝塚市にある
手塚治虫記念館
（任正来撮影）

話が融合された。日本の神話には、建国の由来、皇室の起源、国家の発展などについての物語が多く、自然神話も文化神話も国家神話の範疇に入る。「唐化」と「欧化」を経た後、国家神話を根底に持つ日本は、とうに時代遅れになった中国文化と衰え始めた西洋文化ではなく、国家神話だけが日本の台頭を後押しできると考えた。

この点から見ると、日本のアニメには多かれ少なかれ神話的幻想の色彩が濃いものが多く、中国アニメのゆったりと落ち着いた寓話的神話とは異なっている。日本のSFアニメとなるともっと荒々しく、乱暴で、刺激に満ちている。「欧化」思想の影響を受けて、日本アニメは「唐化」による伝統的道徳上の束縛を打ち破り、テーマ設定やストーリー面で中国アニメよりずっと内容や形式が豊富である。

近年の経済危機で日本経済は衰退したが、アニメ産業は勢いよく発展し、多元化され、制作環境も多様になった。日本ではアニメ産業チェーンがすでにかなり成熟しているが、中国のアニメ産業チェーンは現在もまだ出来上がっていない。

中国アニメの不足点とその対策

以上の分析から、日本アニメと比べて中国アニメには「ポジショニングがはっきりしていない、オリジナル作品やエンターティメント性に欠ける、安易に模倣する、オリジナル作品の育成を軽視している、創作・編集人材が非常に不足している、産業チェーンがない、コストが回収できない」など、多くの不足点があることが分かる。これらは中国アニメの発展を由々しく制約している。

中国アニメは日本アニメから、異なる人々のニーズに合わせて制作する姿勢を学び、ストーリーの創作や企画デザイン、映像言語を重視するべきだ。このほか、中国アニメはスタイルや内容の面でまだ多様性が足りない。また、文化製品であるアニメは、国際的要素と中国的要素を結び付け、民族の特色を活かした発展の道を歩むべきだ。民族文化は長期的発展の原動力の源泉である。

中国のアニメ産業が飛躍し現在の立ち遅れた状況を変えるには、日本などの成功経験を学ぶと同時に自国のかつての輝かしい経験を総括することも必要だ。そして品質とエンターティメント性を高めると同時に、自国のアニメの良さを活かして高品質で誰からも愛される本当の国産アニメの傑作をもっと生み出さなければならない。

中国アニメ市場の見通しは明るい

中国経済の急速な台頭は人々の生活水準のさらなる向上を伴い、精神・物質生活はますます豊富になり、精神面を満足させるような消費がますます必要とされるようになってきた。アニメはまさに精神面の豊かにするための商品である。

中国のアニメ商品消費の市場は、従来の子供向け市場だけでなく多元化する傾向にある。大人向けのものも一部あり、ある階級に限定されなくなってきた。しかもこの傾向はすでに阻むことのできないほどの勢いになっている。また、中国の現在のニーズからすると、中国のアニメ商品は非常に不足しており、１０００億元の未開発市場がある。

また、中国のアニメ関連商品開発市場について言えば、その市場空間はさらに大きい。中国産業研究院によると、現在中国は毎年、文具商品の売上が６００億元、玩具の売上が２００億元、児童向け音声映像製品・出版物の売上が１００億元近くあるが、これらの売上はある程度アニメ産業に依存しているところがある。したがって、中国アニメ産業の生産額はあと数年のうちに１０００億元を超え、一定規模に達する見込みがある。

中国アニメの発展には、「歴史が長い、日本という『アニメ王国』に近い、人材が豊富、消費者数が多い」という優れた優位性がある。中国アニメが今後学ぶべきは日本のようなアニメ大国だが、もっぱら模倣するのではなく、「滓を捨てて精華を取る」過程の中で自分のスタイルを探し、民族文化を融合させた発展の道を切り開いていかなければならない。客観的な態度で学び、創作するよう努力していけば、将来きっと世界のアニメーションの舞台で一席の地を得ることができるだろう。

コスプレを披露するアニメファン（姚永強撮影）

笑顔の中国人女性みな美人

斎藤文男（南京大学日本語学部専家）

◇笑顔だったならば……◇

中国人の女性はみんな美しい。お世辞ではない。どの女性もみな西施、楊貴妃、王昭君、貂蝉（ちょうせん）の子孫ではないかと思うほどだ。あるいは先祖が虞姫か卓文君かもしれない。誇張ではない。笑顔ならばというただ一つの条件付きでのことである。百貨店の店員、レストランの服務員、旅客機の客室乗務員。ほとんどの人たちに笑顔がない。黙々と任務をこなすが、けだるい態度や怒ったような表情でいやいやながらやっているようである。笑顔になればみんな美人になるのに、なぜ面白くない表情をしているのだろうか。私がいつも野菜や魚を買いに行く市場の女性は、いつも笑顔で美しく新鮮な表情だ。

◇アンケートに答えたら◇

数年前、中国の国内旅行で飛行機を利用した。機内の雑誌を見ていたら、乗っていた航空会社へのアンケートがあった。意見を書く欄があったので、「同じ会社の国際線の客室乗務員は笑顔で勤務しているのに、国内線ではなぜ笑顔がないのか？」と書いて出した。この時に乗った同じ会社の国際線は日本に帰国するたびに何回も利用している。その時の笑顔の態度が印象に残っていたので、国内線の乗務員の無表情な態度が気になった。

間もなくして主任らしき女性の客室乗務員がやって来た。「貴重なご意見をありがとうございました。これからは笑顔で勤務するようにいたします」と丁寧な言葉で話した。しかし、話す表情に笑顔はなく真剣だった。言葉通りに笑顔で話してくれたら納得したのだが、これからも笑顔での勤務はないだろうと感じた。アンケートの意見が会社の上司に知られることを心配していたのだろうか。スタイルも顔立ちも申し分ないのに、このような女性がにこやかな笑顔で機内サービスをしてくれたら、この会社の便の利用者はぐっと増えるだろうに、と残念に思った。室内の機能や飛行時間の短縮などより、笑顔の接客が最高のサービスになる事を、航空会社の幹部は気がついていないのだろうか。

◇「慢走」に声を上げて笑う◇

レストランの女性服務員もおしなべて黙々と仕事をしている。注文の食事を運んだり、食べ終わった皿を下げたりする仕事ぶりは真面目だが、決まって笑顔はない。やはり怒ったような表情だったり、自分の任務を完遂するという責任感一杯の顔である。お客さんのところに注文の料理を運んできても表情をまったく変えず、しかも無言で置いていく。食べ終わったものを下げるときも何の言葉もない。日本の料理店やレストランだったら、必ず「お待たせいたしました。ご注文の○○を持って参りました」とか「お下げしてもよろしいでしょうか」などとお客さんに対して笑顔の会話がある。中国の場合は何の会話もない。時にはビール瓶にまだ少々残っているのに、友人と話に夢中になっていると、いつの間にか残っているはずのビール瓶が、すでに持ち去られていたことが何回もある。それ以降、ビール瓶は必ず見えるようにテーブルの中央あたりに置くことにしている。

入口に立っている女性が両脇で「歓迎光臨」（いらっしゃいませ）と声を掛けるが、ただ口先だけで感情はまったくない。「ご光臨を歓迎」しているとはとても思えない。時には「歓～迎　阿～阿　光～臨」とあくびをしながらの「歓迎」もある。お客の第一印象が決まる重要な位置にいる服務員なのだから、その店で一番の美貌の女性が任にあたっているのだろうに、笑顔が加われば店の印象は一変するはずだ。

帰りがけに服務員は、「請慢走」（どうぞ、ゆっくりお帰りください＝ありがとうございましたの意味）というから、文字通り手足をスローモーションのようにゆっくりとオーバーに動かして歩いた。ドアーのところにいた服務員は怪訝な顔をして見ていたから、「慢走ｍａｎ ｚｏｕ」（ゆっくり歩く）と強調して言いながらゆっくり歩いた。女性服務員はやっと気がついて声を出して笑った。その笑顔はそれまでのむっつりした表情にはない、とても優しく女性らしい美しさがあった。これほど笑顔が優しく美しいのに、なぜ表情を殺して仕事をしているのか不思議でならない。店の服務員全員が美しい笑顔で接待してくれたなら、料理の味がたとえ一流でなかったり、値段が少しぐらい高くとも千客万来は間違いないだろうといつも感じる。

◇359日間休みなく働く◇

これらの人たちと対照的なのは、南京市内で私が数年来通っている副食品市場で働く女性たちである。市場は国営となっているが、中で商いをする80人近くの店は個人経営である。1カ月約1000元を半年ごとにまとめて支払い、野菜を中心に肉類、魚類、カニ、タマゴ、米、果物、豆腐などを売っている。

私は1週間に1、2回、買い物に行くが、今では買う場所が大体決まってしまった。思い出してみると、その場所は初めて行って買った時、店の人が笑顔で応対してくれた場所だった。売っている人は9割方女性である。笑顔に誘われて何回か通っているうちに、いつの間にか決まった店のなじみ客になってしまった。後から気がついたのだが、他の人たちもみな笑顔でお客と応対をしていた。私が初めて行った時は、たまたま笑顔がなかっただけだった。

店はいつ行ってもやっている。土曜、日曜、祝祭日でも平常通り営業している。朝は6時から、冬場は午後7時半まで、夏場は薄暗くなる8時半まで開いている。1日の労働時間は13時間半から14時間半である。休みは春節から6日間だけで、1年359日間休みなく働いている。それでも彼女たちに不満の表情はない。活き活きと毎日お客さんに笑顔で接している。

◇十六夜の月明りの下で◇

11月の立冬から4日後の土曜日、朝5時半に市場に行ってみた。十六夜（いざよい）の月が西の空に輝いていた。夜明け前だったが、女性たちはすでにそれぞれの店で商品の整理をしていた。トウミョウやホウレン草など葉物野菜は不要な部分を手早く取り除き、チンゲン菜は根元部分を揃えて並べる。きれいに並んでいると購買意欲も強くなる。準備中に笑顔はないが、実に楽しそうにてきぱきと動いている。

正午まで立ちっぱなしでお客の応対をしたあと、午後3時ごろまでは、夫と交代する人が多いようだ。未明に仕入れをした夫も午前中一休みしたあと、店に出るが、妻ほどの働きはしていない。笑顔もなくお客に声も掛けない。中には下を向いて新聞を読んでいる人もいる。午後3時から夕方にかけて女性の笑顔とともに、並んだ商品もどんどんさばけ

笑顔でお客の応対をする野菜売り場の女性

「若い時はもっと美人だった」と笑顔で語る

笑顔で親切に説明してくれた大型電気器具店の女性店員

ていく。これからはダイコン、ハクサイ、サトイモなど冬野菜が美味しくなる季節だ。ダイコンは鮭、コンブ、ニンジンなどと一緒に「石狩鍋」に、コンニャク、チクワ、コブと煮てオデンに。ハクサイは漬物か鍋の具に。サトイモは煮っ転がしに、などと考えながら笑顔と一緒に買い込んでいく。以前の国営スーパーにいるような仏頂面の女性店員のようだったら、これほど購買意欲は沸いてこないだろうと思った。

◇「文明礼節」ある社会の原点◇

市場で野菜を売っている30歳代の夫婦は、小学校6年生の男の子がいるが、家族で旅行に行ったことはこれまでにないという。家族旅行など考えたこともなく、レストランで3人一緒に食事をすることもめったにない。夫は毎朝2時から卸売市場に仕入れに行き、妻は朝5時半から店に立つ。低学年のころは親が学校に連れて行ったが、6年生になった今は一人で学校に行き、「宿題などもほとんど面倒を見たことはない」と話していた。学校で何が一番好きか、と子供に聞いたら「スポーツ」だった。科目では「国語が得意」と自信ありげに答えた。「将来どのような人になりたいか」は、まだ決めていないが、休みなく活き活きと働く両親の生き方を見て、健全な大人に成長するだろうと思った。

数年前、この市場で「おばさん、すみませんがちょっと通してくれませんか」という非常に丁寧な言葉を聞いた。南京やこの周辺地域の方言が飛び交う中で、外国人が中国語を習うときの教科書に載っているような言葉だったので、私にもすぐに聞き取れた。振り返って声の方をみると、小学校低学年の男の子が中年の女性の後ろでじっと待っていた。通常だったら、子供は黙って女性を手で押しのけて間を通って行っただろう。男の子は学校で習った言葉を実生活で使ってみたのかもしれない。このような体験を積んで大人になった社会は、「文明礼節」のある社会になるだろうと思った。その原点が笑顔で働く女性が多いこの市場にあるように感じた。

◇西施や楊貴妃超える美人◇

今年5月、南京市内にある大手の電気器具店でテープレコーダーを探していたら、笑顔を浮かべてとても愛想のよい女性の店員が近づいてきた。5000元前後の商品がずらりと並んでいた。200元程度のテープレコーダーを見つけて、使い方などを聞いたら、要領よく笑顔でいろいろ説明してくれた。CDやDVDではなく、アナログな時代遅れのような磁気テープで再生するものだったが、私は迷わずその商品を購入した。あまりに親切だったのでその店員と一緒に写真まで撮ってしまった。笑顔はやはり価格には表れないサービスなのだと思った。

者も売り場に入れてもらって笑顔で記念写真

ちょっとはにかんだ笑顔も素晴らしい

日本のネットで「美しい有名女性ランキング」というアンケートを見たら、トップは女優の藤原紀香だった。2位吉永小百合、3位仲間由紀恵、4位小雪、5位黒木瞳と続いていた。（2009年オリコン・モニターリサーチ）

藤原紀香が美しい女性のトップになった理由について、「顔もスタイルも美しく健康的な美人」という声のほかに、「いつも笑顔なところや前向きな姿勢が素敵」という評価があった。笑顔はサービスの向上とともに女性自身を美しくする要素でもあるのだ。

私が買い物に行く市場の女性たちに、化粧をしている人はいない。身なりも着飾っているわけではない。働くことに生き甲斐を感じて、活き活きと笑顔で商いをしている。ここには、西施の顰（ひそみ）に倣（なら）う人など一人もいない。笑顔は、西施や楊貴妃以上の美人ばかりだ。中国全土の女性がこの市場の女性のように笑顔で生活したら、中国は間違いなく世界一の文化国家になる、と私は確信している。（写真はすべて筆者写す）

広島大学北京研究センター 日本語作文スピーチコンテストが開催

本誌記者　繆暁陽

広島大学北京研究センターが主催し、日本の渋谷育英会が特別協賛し、首都師範大学日本文化研究センターが共催した「2011日本語作文スピーチコンテスト」が10月29日、首都師範大学国際文化学院で行われた。

今回のテーマは「10年後の私に」。コンテストがスタートして以来、審査グループは寄せられた数百篇余りの作文の中から、一次審査、二次審査を経て、優秀作約30編を選出した。そのうち、厦門大学の張佩瑜さん、国際関係学院の張越さん、大連外国語学院の于潔さん、北京語言大学の李盛梅さん、首都師範大学の馬源営さんら5人がスピーチコンテストに参加した。表現力と発音、内容、話し方の4点から審査が行われ、最終的に張佩瑜さんが最優秀賞に輝き、他4人が優秀賞を受賞した。

2006年から今年まで、広島大学北京研究センターはすでに6回の日本語作文スピーチコンテストを開催してきた。中日両国青年の相互理解を促進し、両国の民間友好交流を図り、中日の異文化間の交流を深め、中日の翻訳文化の形成を推進することが主旨である。今回のコンテストでは、広島吟剣詩舞訪中団から吟詠も披露された。

また、今年は広島大学北京研究センター設立10周年であり、10月30日、記念シンポジウム「日本語・日本文化　研究と教育の将来に向けて」が首都師範大学国際文化学院内で開催された。広島大学北京研究センター上級顧問の劉徳有氏と広島大学北京研究センター長の佐藤利行氏による記念講演が行われ、午後には4つの分科会で27の研究発表も行われた。

渋谷育英会の小丸法之会長から受賞者たちに賞品が贈られた　（繆暁陽撮影）

2011広島大学北京研究センター日本語作文スピーチコンテストでの記念写真　（繆暁陽撮影）

広島大学北京研究センターは、広島大学初の海外教育研究拠点として、2002年10月25日、中華人民共和国北京市にある首都師範大学国際文化学院の中に設置された。会議室・事務室・教室・茶室などを備えており、日本語の堪能な現地スタッフもいる。センターの設置目的は（1）研究者相互の共同研究及び研究者交流の支援（2）優秀な留学生の確保（3）広島大学からの留学支援（4）日本事情の紹介と情報発信などである。

中国とASEANの経済貿易協力 その成果とチャンス、前途

姜志達（中国国際問題研究所アシスタント研究員）

筆者

２０１１年は中国とＡＳＥＡＮ（東南アジア諸国連合）の対話関係成立２０周年にあたる。この２０年間で、中国はＡＳＥＡＮ域外の大国の中で最初に『東南アジア友好協力条約』に加盟し、最初にＡＳＥＡＮと戦略的パートナー関係を築き、最初にＡＳＥＡＮと自由貿易協定を設け、他にさきがけて『東南アジア非核武器地帯条約』議定書に署名し、双方は安全保障領域、とりわけ従来領域以外の安全領域における協力で著しい成果を上げた。

中国とＡＳＥＡＮがこれほどまでに大きな成果を成し遂げたのは、双方が新しい時代条件の下で相互信頼と相互利益を目指して協力してきた結果である。そのうち、双方の関係発展推進の中心となってきた最も注目すべき分野は、経済貿易協力である。

目覚しい成果

（１）貿易総量が増え続けている。中国とＡＳＥＡＮ間の貿易はこれまで２０年間で年平均２０％以上という速さで勢いよく成長してきた。１９９１年の中国とＡＳＥＡＮ間の貿易額は７９億６０００万ドルだったが、２０１０年には２９２８億ドルに達した。２０１１年１～１０月の貿易額は同期比２５・７％増の２９５９億ドルに達し、年間貿易額は３５００億ドルを超える見通しだ。これは１９９１年の４０倍余りにあたる。また、中国・ＡＳＥＡＮ双方の貿易パートナーとしての地位が高まっている。中国の貿易総額に占める中国・ＡＳＥＡＮ間貿易額の割合は１９９１年の５・９％から２０１０年の９・８％まで上がった。現在、中国はすでにＡＳＥＡＮ第一の貿易パートナーとなり、ＡＳＥＡＮは中国の第三の貿易パートナーとなっている。

（２）双方向投資が拡大している。ＡＳＥＡＮ諸国は中国の重要な投資先であり、中国企業が「走出去」（海外進出）する際に先ず選ぶ地域の１つでもある。中国側の呼びかけにより、中国・ＡＳＥＡＮ銀行業投資協力基金、中国・ＡＳＥＡＮ銀行業連合が相次いで設立され、重要な投融資協力の場となっている。２０１０年のＡＳＥＡＮの対中国直接投資は同期比３５・２％増の６３億２０００万ドル、中国の対ＡＳＥＡＮ直接投資は同期比１２％増の２５億７０００万ドルで、２０１０年の対ＥＵ直接投資２１億３０００万ドルを上回った。中国は現在、ミャンマー、カンボジア、ラオスにとっての最大の外資供給元であり、タイやインドネシア、マレーシア、シンガポール、フィリピン、ブルネイでの投資額も各投資先国で上位に入る。中国企業のＡＳＥＡＮ諸国への投資を継続的に拡大するために、中国政府はＡＳＥＡＮ各国に経済貿易協力区を作り、産業クラスター投資を通じて双方の経済貿易協力レベルを向上し、先進的で適用できる技術の移転にさらに力を入れ、ＡＳＥＡＮ諸国の産業競争力を高めていくことを約束した。

（３）中国ＡＳＥＡＮ自由貿易協定（ＡＣＦＴＡ）が全面的に完成した。２０１０年１月１日に成立したＡＣＦＴＡは中国とＡＳＥＡＮの経済貿易協力における最も重要な措置であり成果である。ＡＣＦＴＡは中国の国際貿易における最初の自由貿易協定で、１９億の人口、６兆ドルのＧＤＰ、４兆５０００億ドルの貿易総額と４兆ドル近い外貨準備高を有する、世界最大の自由貿易協定の１つである。自由貿易協定の成立は、中国とＡＳＥＡＮ各国の貿易投資成長を促進し、経済融合を深め、企業や国民に利益をもたらし、互恵・ＷＩＮＷＩＮ、共同発展という目標を実現した。また２０１１年には、ＡＣＦＴＡ枠組み下における貿易と投資の拡大、中小企業や観光、民間、文化の交流の増加を目的として、中国・ＡＳＥＡＮセンターが完成した。

２０１１年１１月１８日、温家宝国務院総理はＡＳＥＡＮ諸国首脳らと共にインドネシア・バリ島で行われた中国・ＡＳＥＡＮセンター除幕式に出席した。右はインドネシアのユドヨノ大統領　（王曄撮影）

優先領域

（１）相互ネットワーク通信は中国とＡＳＥＡＮ関係発展の重点領域である。２０１０年の第１７回ＡＳＥＡＮ首脳会議で採択された『ＡＳＥＡＮ相互ネットワーク通信全体計画』は、２０１５年のＡＳＥＡＮ共同体設立に向けてＡＳＥＡＮが実施した重大な措置であった。現在ＡＳＥＡＮの最大の関心事の１つになっているのが、この計画の実行だ。ＡＳＥＡＮの地域経済協力における主導的役割の発揮、ＡＳＥＡＮ内の安定団結と経済成長、ＡＳＥＡＮの世界における影響力拡大にかかわってくるためである。

近年来、双方の首脳は相互ネットワーク通信の実現が優先協力領域であり重点方向であることを繰り返し強調してきた。今年４月、温家宝総理はＡＳＥＡＮのスリン事務局長と会見した際、「中国はＡＳＥＡＮと共に努力し、相互ネットワーク通信構築の推進を重点にして、双方の各領域での協力を全面的に推進することを望んでいる」と述べた。今年１１月に行われた第１４回中国・ＡＳＥＡＮ首脳会議および中国・ＡＳＥＡＮ対話関係成立２０周年記念サミットで、温家宝総理は「中国政府は２００９年に約束した１５０億ドルの貸付金のほかにも、さらに１００億ドルをＡＳＥＡＮ諸国に提供する。これにはＡＳＥＡＮ諸国の相互ネットワーク通信構築支援に用いられる優遇借款４０億ドルが含まれる」との意向を発表した。

（２）グリーン発展が中国・ＡＳＥＡＮ協力の新たな原動力になる。中国環境保護部の李干傑副部長は、「中国とＡＳＥＡＮ諸国は地理的に近く、大多数が発展途上国と新興工業国であり、環境と発展の面で多くの共通の課題に直面している」と指摘している。中国・ＡＳＥＡＮの対話と協力は、地域経済と社会環境との相互協調・融合の促進、地域の持続可能な発展の実現を一貫して主旋律としてきた。ＡＳＥＡＮは中国とＡＳＥＡＮの環境面での協力を非常に賞賛すると同時に、政策・技術面での協力をさらに強化することも望んでいる。

環境保護協力はすでに中国とＡＳＥＡＮの協力において不可欠の重要領域になっており、双方は生物の多様性、気候変化、大メコン川圏地域協力などの問題で対話を深めている。今年５月にオープンした中国・ＡＳＥＡＮ環境保護協力センターは、主にＡＳＥＡＮの枠組み下における環境領域協力、双方の環境保護産業協力の推進などを

行っており、中国・ＡＳＥＡＮの環境保護実務協力の重要な窓口であり、舞台である。環境保護協力の強化は公共政策の内容であるだけでなく、同時に巨大なビジネスチャンスをはらんでもいる。

明るい前途

今、世界は深刻で複雑な変化の中にいる。一部の先進国の経済回復は力を欠き、深刻な金融・債務危機が起こり、世界の経済と金融は依然として楽観を許さない情勢だ。それと同時に、世界的な食糧問題、エネルギー問題、環境問題がますます人類の持続可能な発展を脅かすようになっている。厳しい外部環境は東アジア地域の発展に少なからざる挑戦をつきつけている。したがって、地域協力の促進と共同発展の実現は、この地域の国々に共通の願いである。

現在、中国は「十二五」期間に入り、「小康社会（ややゆとりのある社会）」全面建設の重要な時期にあり、経済モデルの転換と民生改善という大きな任務に直面している。一方ＡＳＥＡＮ諸国はＡＳＥＡＮ経済共同体の期日通りの実現に向けて、ＡＳＥＡＮ全体の実力と経済競争力を保とうと努めている。こうした状況の中で、戦略的コミュニケーションと戦略的相互信頼の強化、より広い領域・より高いレベルでの協力、内発的な活力と原動力の増強、経済発展の加速、民生の改善が双方首脳の共通認識になっている。中国とＡＳＥＡＮはすでに多くの利害が一致する運命共同体であり、協力基盤は堅固で、その見通しは明るい。

２０１１年１１月１日、広西チワン族自治区欽州保税港区埠頭のコンテナ置き場。ここは中国でＡＳＥＡＮと最も近い保税港区だ　（張愛林撮影）

民主の礎 末端レベル選挙

本誌記者　張志萍

７月から、中国の県・郷級の人民代表大会代表の改選選挙が各地で次々に始まった。今回の選挙は２０１０年３月に改訂された新しい『選挙法』公布・施行後初の改選選挙であり、約６０年来初めての都市部と農村部の同一人口比率選挙でもある。北京市の区・県、郷・鎮級人民代表選挙の投票日だった１１月８日には、全市で９１０万人が投票に参加し、投票率は９７％で、北京市の最近３回の改選選挙のうち最も高い投票率となった。

今回の直接選挙に参加する有権者は数億人で、そのうち県級人民代表選挙に参加する有権者は９億人余り、郷級人民代表の有権者は６億人余りに達し、世界最大規模の有権者団体となる。今回の改選選挙では、約２０００の県級政府、約３万の郷級政府、約２００万人の県・郷級人民代表が誕生することになり、今後の中国社会政治の進展に重大な影響をもたらすことは間違いない。

ほぼ改選選挙の終わったいくつかの省・区の状況から見て、今回の選挙で有権者は非常に積極的に選挙に参加し、投票率は９０％を超えている。流動人口の参政権を保障するために、各地で多くの積極的かつ有効な措置が講じられ、高い効果を上げた。選挙委員会が法に基づいてアレンジする候補者と有権者との交流が広く行なわれた。

しかし依然として、有権者の知る権利や参与権、表現権の保障や、有権者の選挙権の監督と十分な尊重、保障の面においては、まだなすべきことが多いと思わなければならない。例えば、規定通り「投票の秘密」が守られるような投票記載台を設置していない、候補者と有権者の交流が不十分で有権者が候補者について知らない、などといった地方もあり、一部では選挙が形式的なものになり、公民が本当の意味で選挙権を行使することができなかった。その一方で、人民代表大会と自分の権利・利益との関係についての意識がまだあいまいで、現有制度下で公民に提供されている権利を積極的に利用していない有権者も多かった。

健全な選挙制度と積極的な有権者は相互に推進し合うものだ。各地方の選挙活動が『選挙法』の規定と立法本意に合致し、具体的な手順の上できめ細かく明確な規定がなされて初めて、末端レベルの選挙をスムーズに行うことができ、民衆が選挙に積極的に参加して真剣かつ責任を持って一票を投じることができるようになる。そして中央の末端レベル民主政治推進の意図が実現され、本当の意味で民主が人々に浸透していくことも可能となるのだ。

北京石景山区八角北里選挙区で開かれた人民代表大会代表候補者と有権者との交流会で、挙手して質問する有権者　（李文撮影）

中米間の人民元レート争いの経緯

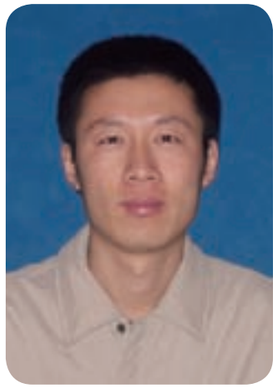
張茂栄（中国現代国際関係研究院世界経済研究所副研究員）

最近、米国の人民元切り上げを要求する声が再び高まっている。10月11日、米国上院は米国政府に「通貨が過小評価されている」貿易相手国に制裁として相殺関税を課すよう要求する『2011年通貨為替監督改革法案』を投票により可決した。その矛先はまっすぐに中国に向いている。米国はなぜしばしば為替問題で中国に難癖をつけるのだろうか？

米国が人民元切り上げ圧力をかける理由

米国が人民元レート問題を提起し始めたのは2003年。現在までに8年がたっている。米国が人民元切り上げ圧力をかける理由は、中国の人民元レートにより米国の巨額の貿易赤字が発生し、米国ひいては世界経済の発展不均衡を招いているというものだ。米国の主張によると、人民元とドルを連動させるペッグ制（固定相場制）は中国の製造業に不公平な競争優位性をもたらしている。また、中国中央銀行の外国為替市場への深刻な介入により人民元が2002年以来ずっと過小評価されていることで、中国の政府外貨準備高が急増、中国は今や世界一の外貨準備国となった。人民元レートがドル安を阻害しているために、米国は経常赤字調整をスムーズに進めることができないでいる。人民元の過小評価はさらにアジア諸国通貨の対ドル高を招き、直接または間接的に世界の価格をねじれさせ、世界経済は不均衡に陥り、さらには世界資源配置が合理性を欠いてしまっている。こうした状況が続けば、将来の調整は中国、米国ひいては世界にとっても巨大なコストを伴うだろう。総合すると、米国の認識は次のようなものだ。①人民元レートは米国の近年来の巨額の貿易赤字に対し責任を負うべき。人民元レート問題による不公平貿易により米国製造業の数百万の就業機会が失われた。②中国は世界経済不均衡調整の鍵を握っている。中国の「為替操作」は世界経済不均衡調整を妨げており、人民元切り上げを行わず中国が固定相場制を変えなければ、世界経済は厳しい試練に直面することになるだろう。

米国の一部国会議員は次のように考えている。「人民元の過小評価は中国に巨額の対米貿易黒字をもたらしている。これは中国の台頭が米国にとって将来だけでなく現実的にも脅威になっていることの反映だ。それは軍事的脅威ではなく代替わりの脅威であり、労働集約型・低付加価値製造業への脅威ではなく技術集約型・高付加価値製造業・サービス業への脅威であり、米国の国際競争力への脅威でもある。そして米国の国家安全に対する脅威であるだけでなく、米国の就業・雇用機会に対する脅威でもある」。それゆえに、彼らはしばしば圧力をかけ、人民元の大幅切り上げを要求しているのだ。2003年以来、米国国会は人民元レートに関連した法案をすでに数十項目打ち出している。



筆者

10月11日、中国外貨取引センター発表の人民元レート中間値が1ドル＝6.3483元となり、初めて6.35の関門を突破、人民元改革以来の最高値を記録した（公磊撮影）

人民元切り上げで米国国内問題は解決できない

2005年以来、国内外経済情勢の変化に鑑み、中国は人民元を切り上げる「人民元改革」を進めている。2005年7月21日19時、中国人民銀行は人民元の対ドル為替レートを1ドル＝8.27元から8.11元に調整すると発表、人民元の値上げ幅は約2.1%となった。これ以降、人民元の対ドル相場は次第に上がっていった。2008年4月10日、中国外貨取引センターは、銀行間為替市場の人民元レート中間値を1ドル＝6.9920元とすることを発表。2011年9月末現在、人民元の対ドル相場値上げ幅は30%に達している。

しかし、人民元切り上げが米国の貿易赤字を解決する効果は極めてわずかだ。2005年6月初め、アジア開発銀行はオックスフォード経済予測モデルによるアジア通貨、特に人民元切り上げ後の状況シミュレーションの報告を発表した。その結果によると、人民元を切り上げたとしても、そのインパクトは中国と周辺国の経済にとどまり、世界経済不均衡、特に米国の財政と貿易の双子の赤字の解決にとってそれほどの助けにはならないというものだった。

中米間に確かに貿易不均衡問題が存在することは否定できない。しかし肝心なのは、中米貿易不均衡は米国の財政政策と消費貯蓄習慣、中米両国のマクロ経済構造の段階的格差、米国の対中国ハイテク品輸出制限などによって引き起こされたもので、人民元レートは中米貿易不均衡の根源ではない、ということだ。人民元が過小評価されているせいで中国製品が国際市場で競争力を持てたというのは問題の表象にすぎない。中国製品価格安の原因は主に中国の労働力コストの安さなどその他の要因だ。

指摘しておきたいのは、人民元切り上げは米国の製造業を救えないばかりか、かえって米国のその他業界の就業・雇用機会に影響するだろうということだ。人民元切り上げは中国が大幅に米国資産購入を減らすことを意味し、中国からの巨額の資本流入が減れば、米国は利上げ圧力に直面することになり、そうなれば就業・雇用状況が悪化するからだ。米国の

シンクタンクであるカトー・インスティチュート貿易政策研究センターのグリスウォルド主任によると、強い人民元は米国経済と製造業にとって良薬になるとは限らず、米国が中国製品の関税を引き上げて人民元切り上げを強要すれば、それは「大きな間違い」となるだろう。なぜならその最も直接的な結果は米国の物価上昇であり、インフレで消費者の負担が増え、米国経済の発展に影響を与えるに違いないからだ。米国はどこまでも中国を非難するのではなく、自ら進んで経済構造を調整し、財政赤字と公共債務を減らし、貯蓄率を高め、収入が支出に追いつかず前借りでやり繰りするような習慣を改めて、その深刻な経済不均衡を是正するべきである。

中国は着実に人民元改革を推進

人民元レートは中国の対外開放と経済発展にかかわる問題であり、中国政府は人民元切り上げ問題について慎重の上に慎重を重ねて対応している。周知の通り、一国の通貨の急激な切り上げは大きな危害を及ぼす。急激な人民元切り上げは中国の輸出を大幅に萎縮させ、中国経済に激しい打撃を与えるだろう。中国経済の構造が不均衡な状態にある今、人民元切り上げをゆっくりしたペースで進めていけば、中国経済の再均衡化は安定した方法で進行が可能になり、その過程で中国製造業は国内で新規顧客を獲得して海外顧客喪失失分を補うことができる。また同時に、失業率を合理的な範囲内に抑えることもできる。しかし人民元切り上げが急激すぎれば、中国経済は再均衡化を実現することができなくなる。輸出企業は破産か他国への移転かという抜き差しならない選択を迫られることになり、中国の労働者の大量失業を招き、世帯所得は悪化し、消費もそれに伴って低下していくだろう。温家宝・中国国務院総理は、「急激過ぎる人民元切り上げは大規模な失業と社会不安を引き起こす。中国はこれを受け入れることはできない」と指摘している。中国人民銀行の周小川行長は、「中国の為替レート制改革は漸進的なもので、『人民元改革』のスピードは中国の国際収支状況いかんで決まるものだ。人民元切り上げは順を追って漸進的に行い、中国の通貨改革は中国自身の歩調で進めていく」との考えを示している。

今後、中国の「人民元改革」は引き続き「主体的、漸進的、管理可能」の原則を堅持していく。中国のさらなる「人民元改革」推進は、情勢に応じて有利に導き、利を追求し害を避けるべきで、発生する可能性のあるマイナスの影響を最小限にするよう努めることが必要だ。①レート変動幅を確実に管理し、市場パワーにより人民元レートがオーバーシュートする可能性をなくす。②自国がイニシアチブを取ることを堅持し、人民元レートの秩序ある変動が中国経済のファンダメンタルズとマクロ調整の必要に合ったものとする。③人民元レート管理と調整において漸進的な方法を取るようにし、企業に構造調整のための時間を与え、企業が人民元レート変動の影響を徐々に消化できるようにする。産業の秩序あるモデル転換とアップグレードを促進し、中国企業全体の国際市場における競争力を保ち、就業・雇用をサービス業へと移していくよう導く。④投機的短期資本の監視と管理を強化し、ホットマネーの大規模流入が国内金融体系に大きなインパクトを与えないようにする。

この6年余り、人民元為替制度改革は主体的、漸進的、管理可能の原則に則り、自国がイニシアチブを取って秩序よく推進されており、全体として中国実体経済にプラスの影響をもたらし、マクロ調整に有利な条件を作り、また国内外の情勢変化への対応においても重要な役割を果たし、所期の効果をあげてきた。

総合的に言って、中国は人民元切り上げの経済金融リスクを十分に考慮し、日本円切り上げの悲痛な教訓を汲み取り、積極的かつ着実な対応策を取ってきた。さらに指摘すべきは、為替レートは国家の通貨政策の核心であり、他国によって決定されるべきではないということだ。中国経済は確かに輸出依存度低減のための構造転換、内需拡大など一連の問題に直面しているが、人民元政策は中国経済の長期的発展の必要に応じて慎重に決定を下すべきである。さもなければ、中国経済のみならず世界経済にとっても深刻な結果を招くことになるだろう。

９月２７日、米国の首都ワシントンで行われた軍人就職説明会で、
申請書に記入する就職希望者たち　（張軍撮影）

http://japanese.beijingreview.com.cn/
http://japanese.beijingreview.com.cn/

「中国は金融緩和すべき」
ＩＭＦ専務理事発言に国内専門家が反論

呉黎華　劉麗

初めて国際通貨基金（ＩＭＦ）専務理事として訪中したラガルド氏は９日の北京国際金融フォーラムで、「中国は現在の行き過ぎた金融引き締め策を調整すべき」との見解を述べた。しかしこれに対し李稲葵氏など多くの経済学者が、「中国の金融政策の方向性は今のところ不変。中長期的には金融緩和すべきだが、短期間内での急激な緩和は中国経済だけでなく世界経済にとっても不利である。

中国の温家宝総理は１１月１０日、北京の中南海・紫光閣で国際通貨基金（ＩＭＦ）のラガルド専務理事と会見した　（李学仁撮影）

金融政策は引き締め基調を維持し、公開市場操作と貸出資金量管理などに対し集中的に微調整を行っていく」との見方を示した。

ラガルド氏の見解は次のようなものだ。「インフレ圧力が高く金融緩和策を取っている時には、金融引き締めは理にかなっている。しかしインフレが抑制され大きな外部リスクに直面している時には、各国は金融引き締めを見送るべきである。ただし、世界の経済環境がさらに悪化した場合は、すぐに政策方向を変更し、経済活動への衝撃をやわらげるための措置を講じなければならない。それでも経済成長できない場合、中国は金融をさら緩和し、不動産産業の再活性化や輸出・投資型から消費型への転換を含めた経済成長モデル調整を行う必要がある。より強い通貨も必要だ」。

ラガルド氏の見解に対し、中央銀行通貨政策委員会の李稲葵委員は「大原則は変えるべきではない」との見方を示している。「中国は今、金融政策の方向性を調整するべきではない。中国の緩和策は中長期的に経済の安定成長を保証する中長期政策でなければならない。それが世界経済への最大の貢献になる」。

中国国際金融有限公司の彭文生チーフ・エコノミストの見方は次のようなものだ。「中国の金融政策は引き締め基調を保つと同時に、引き続き事前調整・微調整を主として、物価上昇防止と行き過ぎた流動性逼迫の防止との間でうまくバランスを取っていく。財政政策的には引き続き緩和の方向で、その主な対象は中小企業、保障性住宅（低中所得者向け住宅）、民生関連の業界だ。金融政策は主に公開市場を通じて流動性を拡大し、貸出資金量の微調整で過度の流動性逼迫を防止する。年内の預金準備率引き下げの可能性は排除しないが、主に銀行の差別的預金準備率から着手することになるだろう」。

モルガン・スタンレー中国エリアグローバル市場主席の李晶氏は、「最近のデータによると、インフレ圧力は弱まっている。これにより、政策決定者が経済成長鈍化リスク低減のための緩和策を選択的に行う余地が広がった。ただ、銀行の借入・貸出資金量は今後数カ月で拡大する可能性が高いものの、来年第1四半期前に金融政策の全面緩和が行われることはないだろう」との見方を示した。

世界人口が７０億突破
各国の「人口問題」

本誌記者　曾文卉

１０月３１日早朝、フィリピンで１人の赤ちゃんが生まれた。その誕生は「地球村」が７０億人目の住民を迎えたことを意味していた。

国連人口基金の統計によると、世界の人口が１０億から２０億まで増えるのに１世紀余りを要したが、２０億から３０億までは３２年しかかかっておらず、１９８７年からは１２年に１０億人のペースで増え続けている。

人口の激増は人類の自然資源への需要の激増を意味する。この需要激増は、食糧や水資源、居住に適した土地の供給に重い負担となってのしかかり、さらには生態環境にとっても大きな圧力となっていくだろう。また人口の激増は人類の社会資源への需要の激増も意味し、教育や医療、就業・雇用、養老などの問題が各国にとって試練となる。

人口増加、各国にそれぞれの悩み

中国社会科学院人口・労働経済研究所の

遼寧省老人芸術大学「夕陽紅」バレエ団でバレエの練習をするお年寄りたち
（田衛濤撮影）

１０月３１日、ニューヨーク国連本部近くの「世界人口７０億人突破」ポスター　（申宏撮影）

学者である鄭真真氏は、世界の人口総数増加を憂慮する必要はなく、注目すべきは各地域がそれぞれ直面する人口状況のほうだと述べている。

国連の統計データによると、世界各地の人口増加率は異なっており、出生率が最も高いアフリカの平均出生率は４・６４、最も低い欧州はわずか１・５３だ。欧州や日本などの先進国が抱える課題は、出生率低下、高齢化、労働力不足である。最も顕著なのが日本で、「少子高齢化」がもう長年続いている。発展途上国が最も集中しているアフリカ大陸の人口は現在約１０億人で、２０５０年には２０億に達すると見られる。

中国人民大学人口・発展研究センターの顧宝昌教授は、人口の増加には慣性があり、現段階における世界人口の継続的増加傾向を覆すことはできない、としている。顧氏の分析によると、世界の人口情勢は数千年の間起きたことのない新たな変化の中にあるという。まず、出生率が継続的な低下傾向にある。国連の統計によると、世界の出生率はすでに１９７０年の４・４５から現在の２・４５まで低下している。出生率の継続的低下のほかにも、世界の人口はさらなる高齢化、都市化の加速、世界人口流動の激化といった新たな変化に直面している。

中国は計画出産で４億人出生減少

国家人口計画出産委員会が明らかにしたところでは、中国は計画出産を実施して３０年余りで４億人の出生を減らし、「世界の人口７０億人突破の日」を５年遅らせた。説明によると、中国の人口の世界人口に占める割合はすでに改革開放初期の２２％から２０１０年の１９％まで低下している。

「計画出産を実行していなければ、現在の人口規模はおそらく１７億を超え、経済社会発展はより多くの困難に直面していただろう」と国家人口計画出産委員会の李斌主任は説明する。出生率の急速な低下により、膨大な数の若年層の入学、就業・雇用、住居などに対する圧力が緩和され、経済発展と社会安定の促進のために条件が作られた。

このほか、計画出産の実行により国民の生活条件が改善され、世帯成長力が高まった。中国の農村部１人当たり純収入と都市部１人当たり可処分所得は大幅に増え、貧困人口は大幅に減り、発展途上国の貧困撲滅の手本となった。

第６回国勢調査の結果によると、中国大陸部の人口総数は１３億４０００万人だった。「十二五」（第１２次五カ年計画）期間、人口総数は１３億９０００万人以下にとどまり、２０２０年に約１４億５０００万人前後になると見られている。

しかし、中国の国民資質は総体的に高いものではない。中国の労働生産率は先進国との間に比較的大きな差があるだけでなく、一部の新興経済体よりも低い。高等教育を受けた主要生産年齢人口の割合は約１２％、高級技術労働者レベル以上の高技能人材の技術労働者全体に占める割合は約２５％である。

人口構造の問題では、中国の出生人口性別比は全体的に依然偏っている。また、「十二五」期間中に生産年齢人口がピークに達し、中国の労働者総数は２０２５年まで９億人以上を保つと見られ、就業・雇用促進の任務は依然として重い。また高齢化が加速しており、２０５０年には６０歳及びそれ以上の高齢者数が４億４０００万人前後に達し、総人口の約３分の１を占める見通しだ。

このほか、中国の家庭が伝統的に果たしてきた機能が弱くなる傾向にある。世帯規模がどんどん小さくなり、「空き巣老人」（１人暮らしの老人）と１人っ子世帯の割合がともに高くなった。

李斌主任によると、人口数、資質、構造、分布問題は経済社会の協調と持続可能な発展に影響する重要な要因であるという。中国は「十二五」とそれに続くしばらくの期間、引き続き計画出産という基本国策を揺らぐことなく堅持し、出産政策の連続性と安定性を保ち、合計特殊出生率を１・８前後に保つよう努力していく。

中国は「人口の硬着陸」を警戒すべき

しかし、出生率の低下と高齢化の激化により、中国はますます「人口の硬着陸」リスクを予測しこれを避ける必要がある、とする専門家もいる。

社会科学院人口・労働経済研究所の蔡昉所長の研究によると、中国の従属人口指数（非生産年齢人口と生産年齢人口の比）は２０１３年前後に最低になった後は高くなり始め、人口ボーナスがなくなる。さらに厳しいことに、生産年齢人口は退職すればすぐ養う必要のある人口へと転じる。国連の予測によると、中国の従属人口指数は２０５０年までに３８％から６４％まで上がると見られている。

「未富先老」（豊かになる前に高齢化社会を迎えること）、不完全な社会保障制度により、中国は苦境に陥ることになるだろう。顧宝昌教授は、いったん低下した出生率を上げるのは減らすよりも難しいと考えている。「長期的視野を持って再度中国の人口政策を見つめなおし、早急に調整をしなければ、時機を誤ることになってしまうだろう」。

２００３年６月１日、インド・グジャラート州の村で、井戸に水を汲むために集まる人々　（新華社/ロータス）

藤間万恵氏
中国で日本舞踊を伝える文化交流使

本誌記者　繆暁陽

藤間流（勘右衛門派）日本舞踊家の藤間万恵氏

藤間万恵氏が演じる創作舞踊「曙光」

波がたゆたうような祈りの舞踊からは、浩然の気があふれ出している。これは「藤間万恵　北京日本舞踊の会」で披露された創作独舞「曙光」を演じる藤間氏の姿である。同公演は「中日学生が共に創る　日本舞踊と歌舞伎演目の舞台」として、10月22日と23日の両日、北京市宣武門にある繁星戯劇村で行われた。

今回の舞台に立った踊り手の8割が中国で日本語を学ぶ学生たちである。一国の伝統芸能の舞台に外国人が立つことは、本来であれば想像も付かない挑戦である。中国における日本舞踊の普及について、先ごろ、本誌記者は藤間流（勘右衛門派）日本舞踊家の藤間万恵氏にインタビューした。

日本舞踊の普及に努める

藤間万恵氏は2010年9月から2011年7月にかけ、日本の文化庁から中国に派遣され、文化交流使として日本の伝統芸能である日本舞踊の普及に努めていた。中国に来ることが決まったいきさつについて、藤間氏は次のように語った。「歴代の交流使の先生方が圧倒的に欧米に行っているが、欧米と違い韓国、中国は日本の芸能、文化の発祥に大きく影響を与えた国だ。この2国のうちで今まで比較的交流の少ない中国に決めた」。

文化交流使としての1年余りの間、藤間氏は北京を拠点に中国各地で大学を中心にした普及活動を行い、日本舞踊の魅力や日本文化を積極的に紹介してきた。活動を通じて一番心に残る出来事について、藤間氏は次のように語った。「日本の言語や文化に興味を持つ中国人の方は大勢いる。日本の芸能は中国の芸能の影響があって出来たものが多く、それは日本では今もなお形を変え伝承されているが、本家本元の中国では途絶えてしまっているものが多い。日本の芸能にもう一度触れていただくことで、中国の古来の芸能に思いをはせていただくことが出来ればと思い、活動をしている」。

「生け花、茶道などは一般の方に体験してもらう事が出来ない。でも日本舞踊なら、その場ですぐ立ってお扇子を持ち稽古のまねごとをする事が出来る」と藤間氏は言う。中国人の生徒や観衆の反応について、藤間氏は次のように語った。「日本人より中国の皆さんはとにかく踊りが大好き！『皆さん、それではちょっとやってみましょう！』と言って、躊躇された事は一度もない。大人も子供も男性も女性も日本に興味ある人も無い人もみんな、我れ先にと率先して前に出てくる」。

「北京日本舞踊の会」を開催

今回の公演は「北京日本舞踊の会」組織委員会が主催し、駐中国日本大使館と北京日本人会が後援したものである。「公演に向けて共に練習する中で両国の学生たちが相互理解を深め、中国の人々に日本の伝統文化を体験してもらうことが目的だ」と藤間氏は言う。

公演では日本舞踊の群舞、創作舞踊、歌舞伎舞踊、能取り物などの作品が披露された。最も注目されていたのは藤間氏が演じる創作舞踊「曙光」である。今年3月に日本では大地震で多くの人命や財産が失われ、人々の心に癒しがたい深い傷を残した。その傷と向きあい、再生するための一筋の光明を探すという想いで、藤間氏はこの作品を創作した。

群舞「さくらさくら」では、桜の花のごとくかわいい中国人少女たちが風に舞い上がる花弁のように舞い踊りながら、しなやかな舞姿で子どもの頃の様々な遊びの情景を再現した。「着付けも着物をたたむことも皆彼女たちが自分でやっている」と藤間氏は語った。

また、歌舞伎舞踊「英執着獅子」では、絢爛な衣装に身を包んだ北京語言大学日本語学科の雷国悦さんが、扱いが難しい数々の小道具を操り、たった数カ月でこの舞台に立ったとは思えないほどの美しい日本舞踊を披露した。

藤間氏に師事して日本舞踊を学ぶことについて、雷さんは次のように言う。「今年の4月、藤間先生と出会って、日本の伝統芸能である日本舞踊を学び始めた。日本舞踊の曲はリズムを取るのがすごく難しく、曲が古いので、現代の若者である私たちにとっては、聞いて理解できない部分もあった。でも藤間先生はいつも親切に教えてくださり、藤間先生の仕事の熱心さに深い感銘を受けた私は、何度も何度も先生に聞いたり、曲を繰り返し聞いたりして、少しずつ理解できるようになった。藤間先生のおかげでいろいろ勉強になった」。

（写真はすべて筆者写す）

「さくらさくら」を披露する中国人学生たち

「英執着獅子」の姫を演じる中国人学生の雷国悦さん

「新・船弁慶」を披露する藤間万恵氏（左）と中日両国の学生たち

大人も子供も絵本を読んで文化の振興を

～中国絵画芸術国際研究討論会に参加して～

斎藤文男（南京大学日本語学部専家）

２０１１「中国百家金陵画展」の一環として「中国絵画芸術国際研究討論会」が１０月１５日、南京市内のホテル「紫金山荘」で開かれ、私も講演者の一人として参加した。この中で私は、大人も子供も絵本をたくさん読んでほしいと提案し、中国文化の振興・向上を願った。絵画や芸術は画家や作家だけが創り上げるのではなく、それを鑑賞する人があって成立するものだ、と思うからだ。鑑賞者の素養や感受性を高めるために、子供の時から絵本に親しみ、画家の方々も絵本にどんどん絵を提供してほしい、と会場の画家や美術関係者に訴えた。子供の時に絵本から得た感動や鑑賞力は、その後の人格形成にも大きく影響するはずだ。そのことが、文化国家を振興する基盤になるのではないか、との考えからだった。話を終わったあと、「よかった」と言って、握手を求めて賛同する人が多かったのは心強く感じた。

◇８カ国・地域からも参加◇

画展は２００５年から毎年開催され、今年で７回目だが、中国内外の美術絵画関係者を招待しての研究討論会は今年初めて開かれた。中国美術家協会、江蘇省委員会宣伝部、省文化庁、省文学芸術界連合会の共同主催で、中国の専門家や学者ら３０人余りのほか、フランス、イギリス、ドイツ、オランダ、カナダ、ニュージーランド、日本、台湾の計８カ国・地域の学者や美術関係者が参加した。１５日、１６日の２日間にわたり、３２人が１人１５分間ずつ講演。現代美術創作におけるリアリズムの意義▽中国国画、油絵の現状と国際的地位と影響▽中国国画の審美価値と科学判断の形成▽中国美術作品の国際化と趨勢などについてそれぞれの考えを披歴した。

国内外の学者や専門家が参加して初めて開かれた美術創作に関するシンポジューム

私は「現代美術創作におけるリアリズムの意義」と題して、主に鑑賞する立場から要旨次のように話した。

人はよく綺麗な風景を見ると「まるで絵に描いたようだ」と形容する。逆に素晴らしい絵を見て「まるで本物の風景みたいだ」と感動する。「風景を見て絵だと言い、絵を見て本物の風景だ、というのはなぜなのだろうか」これは実際の風景や描かれた絵画の中にあるもの以上のものを、人は求めようとする欲求があるからではないと考えた。そして、３人の画家と一人の板画家の作品と人となりについて考察した。

◇写実から摂理を引き出す◇

始めは、スペインでリアリズム絵画を探求して、４年前５３歳で亡くなった磯江毅（１９５４～２００７年）の「新聞紙の上の裸像」という作品を取り上げた。新聞紙を２枚、大きく広げたところに裸婦が横になっている絵である。女性の肌の光と影、下に敷いた新聞の文字や写真、広告などすべて鉛筆で写実したものだった。この絵を見た時、私は写真だと思った。しかし、すべて手で描いたものだと知り驚きと感動に震えた。写真だったらこのような驚きや感動はなかっただろう。磯江はなぜ写真のような忠実に写実した絵を描くのか。「空間と物の存在の中から、摂理を見出す」ためだと言っている。人物や物の表面や形を正確に描くだけではなく、その奥にある自然の摂理を引き出そうとしているのだ。

◇見えないものを見えるようにする◇

同じようなことは、ドイツで活躍しナチスに「退廃芸術」と攻撃され、故国スイスで亡くなったパウル・クレー（１８７９～１９４０年）も主張している。「画家は見えるものを表現するのではなく、見えないものを見えるようにする」というのである。

クレーは日本でも人気のある画家で、１９６０年代以降、たびたび展覧会が開催されている。日本パウル・クレー協会名誉会長のアリョーシャ・クレーさんは「日本でなぜ、クレーの芸術がこれほど愛好されるのか疑問の一つだ」と言っている。それは、クレーが引き出した「見えないもの」が日本人の心には見えるからだ。日本には「八百万の神」（やおよろずのかみ）という言葉がある。「すべての神様」という意味で、山や川、大きな岩、家の玄関、窓、トイレなどどんなところにも神様がいる、という思想である。目には見えないが、そこに神様が宿っているので、そこを大切にするという考えだ。このような日本人の考えが、クレーの絵を理解して愛好する基盤になっているのではないかと思う。

シンポジュームで発表する筆者

◇絵の中に魂を取り込む◇

このことは傅益瑶さんの絵にも共通している。中国近代画壇の巨匠・傅抱石（１９０４～１９６５年）を父に持つ傅益瑶さんは１９７９年、日本に留学して平山郁夫、塩出英雄両氏に師事し、中国伝統の水墨画と日本画の技法を取り入れ独特の画風を確立した。現在、日本各地の祭りを水墨画に描き、日本全国で展覧会を開き人気を博している。傅益瑶さんは以前、ＮＨＫのテレビで水墨画の講師をされていたとき、「表面的な形を描くのではなく、絵の中に魂を入れることが必要です」と話した言葉が印象に残っている。傅益瑶さんは「日本の祭り」を描くとき、その中に魂を取り込み、見る人はその魂を感じ取って「素晴らしい」と感動するのだろう。

今から４０年ほど前、私は毎日新聞青森支局勤務のとき、板画家の棟方志功さん（１９０３～１９７５年）を取材したことがある。ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展の版画部門で日本人として初めて国際版画大賞を受賞した。それによって青森市民の名誉市民第一号となったので取材に行った。７２歳で亡くなる６年ほど前のことだった。

シンポジュームの会場となったホテル「紫金山荘」

◇勝手に手が動き神様が描かせる◇

棟方さんは若い新聞記者を相手に、いろいろなことを話してくれた。極端な近視だったので、私は「目がよく見えなくてなぜこのように絵を描いたり、彫刻を彫ることができるのですか」と聞いた。棟方さんは独特の笑いながら話すような口調で、「私は自分で絵を描いたり、彫刻を彫ったりしているのではなく、手が勝手に動いて神様が私の手を使って描いているのです」と答えた。当時、棟方さんの言葉を正確に理解することはできず、「天才的な画家はそのようなものなのか」と思い、その言葉を記事にした。その後、多くの機会に、棟方志功作品をたくさん見てきた今は、ある程度この言葉を理

解することができるようになった。

「自然の摂理を引き出す」磯江毅。「見えないものを見えるようにする」パウル・クレー。「水墨画に魂を込める」傅益瑶。そして「神様が描かせる」という棟方志功。４人の作品に共通するのは、創造した作品の中には作者の強いメッセージがあることだ。これを感じ取るには鑑賞者の側にもある程度の素養や感受性が必要だ。

◇子供に絵本を読み聞かせよう◇

絵画は創作する作家と、それを何年間にもわたって鑑賞して味わい理解する鑑賞者の共同作業からなるものと思う。作品に込められた作家のイメージを的確に読み取ってもらうには、鑑賞者の育成もしなければならない。そのために２つのことを提案したい。

１つは、親は子供にたくさん絵本を読み聞かせてほしいということだ。子供の時に絵本から習得した素養や感受性は、その後の人格形成にも大きな影響を与えるからだ。２つ目は画家の方々も絵本にどんどん絵を提供してほしい。子供時代は想像力が逞しく、絵本で見た絵はいつまでも脳裏に残っていて忘れがたいものだ。それが、大人になってからの観賞力も養われるはずだ。

現在の社会は、多くのものがデジタル化され、感情の少ない社会になっている。このような時代にこそ、一つひとつを感情込めて手で描くアナログな美術が必要な時代になっていると思う。それが美術創作における肝要な意義ではないかと考える。

◇賛同し多くの人が握手求める◇

私は講演の中で、このような内容の話をした。子供時代に絵本から受けた感動はその後の感受性や素養を豊かにする源になるはずだ。それが美術や芸術を理解する力になれば、豊かな文化国家を築く一助になると思う。

子供時代にたくさん絵本を読む必要があることは、会場の多くの人にも賛同してもらえたようだ。講演を終えたあと「とてもよかった」と握手を求めてくる人が何人もいた。私は日本語で話し、中国語で同時通訳が行われたが英語の通訳がなかった。このため、ドイツ・ベルリン芸術協会の先生からは「話の内容に興味があったが、日本語と中国語だけでは意味がよく分からなかったのは残念だった」と直接私に訴えてきた。

棟方志功と友達だったという台南芸術大学の徐小虎教授からは、「棟方志功さんは、私には『鬼が描かせる』と言ってわよ」と言われた。徐教授からは夕食の時、「ご一緒してもよろしいでしょうか」と非常に丁寧な日本語で声を掛けられ、いろいろ話を伺うことができた。徐教授は南京市生まれで、日本軍の爆撃によりドイツに避難したあと、イギリス・オクスフォード大学で博士号を取得。日本の神奈川県・北鎌倉で棟方氏と知り合い、現在は台湾に住んでいるという。にこやかな笑顔で、ちょっと急いでいるような話し方が棟方志功そっくりだった。非常に懐かしくなり、思わず腕を組んだ記念写真はメールで送る約束をした。

講演会場では休憩時間に、中国と外国の画家や書家たちが、お互いの作品を掲載した著書や名刺を交換し合っていた。私もたまたま隣に座ったニュージーランドの博物館長が講演している写真を撮り、メールで送ることになった。このような国際的な人脈の広がりもこのシンポジューム開催の意義になるだろう。

◇「心の豊かさ」を求める一歩◇

シンポジューム主催者側の南京大学新聞傳播学院・韓叢耀教授は、中国国内外の専門家を集めて開いた意義について次のように話した。

「中国は現在、食糧や衣類、居住関係などが以前より改善され比較的豊かな生活になった。物質的には豊かになったが、これからは精神的な面の向上も必要であり、心の豊かさを求めていかなければならない。その一歩が今回のシンポジューム開催となるだろう」

10月18日閉会した中国共産党の第17期中央委員会第6回総会で、「文化強国」実現のための決定が採択された。日本のメディアでは「報道やネットの規制、管理強化なども含まれる」と報道しているが、経済の発展とともに文化振興への方針を打ち出したことは、心の豊かさも追求しようとするもので、先進国家への道程として自然な要求だと思う。

日本の高度経済成長期（1955～1973年）以後、「物の豊かさ」と「心の豊かさ」を求める割合がそれぞれ40％と並んだのは1978年である。（内閣府の『国民生活に関する世論調査』から）　東京オリンピック開催（1964年）から14年後、大阪万博（1970年）からは8年後である。その後、「心の豊かさ」を求める人々が増え続け、2010年には「心の豊かさ」60・0％、「物の豊かさ」31・1％と精神的な豊かさを求める割合が圧倒的に多くなっている。北京オリンピック、上海万博が成功裏に終わり、中国が文化を振興させ、「心の豊かさ」を求めようとする方向に向かい始めたのは、「物」と「心」の両面が充実した国づくりを目指して動き始めたのだと思う。

（写真はシンポジューム会場で筆者写す）

工業都市
唐山の文化産業推進

本誌日本語専門家　勝又あや子

１３０年余りの歴史を持つ炭鉱を利用した開灤国家鉱山公園

経済発展モデルの転換が叫ばれ、国ぐるみで文化産業の発展を推し進めている今、工業・資源型都市として知られる唐山市も文化産業の推進に力を入れている。唐山市の文化産業推進状況を取材した。

唐山市は北京から北東に約150キロの位置にあり、北は燕山、南は渤海に面している。総面積は1万3472平方キロ、人口は735万人。河北省の中心都市であり、経済の中心である。

唐山市が文化産業発展計画において具体的かつ重点的に取り組んでいるのが十大産業チェーンの構築だ。十大産業チェーンとは、工業文化産業、歴史文化産業、紅色（社会主義革命）文化産業、生態文化産業、地域文化産業、地震文化産業、展示会文化産業、創意設計文化産業、印刷包装文化産業、観光レジャー文化産業のチェーンをいう。今回は、このうち工業文化産業、生態文化産業、地震文化産業を代表する取り組みを視察した。

工業文化産業

開灤国家鉱山公園

唐山というと鉄鋼や石炭、基礎エネルギー、セメント、陶磁器などの工業が発達した工業都市のイメージが強い。唐山市では、その特色を生かして工業文化産業を推進していこうとしている。その代表が開灤国家鉱山公園だ。

この公園は李鴻章の指示により1878年に設立された開灤炭鉱（当時の名称は開平炭鉱）をベースに作られている。開灤炭

鉱は中国初の機械による採鉱や石炭の鉄道輸送が始まったところで、中国初の標準軌道鉄道の起点や中国初の蒸気機関車、現存する中国で最古の株式、100年以上前に手書きで記帳された羊皮紙の帳簿など、中国の100年来の工業発展を象徴する貴重な遺産を有し、「中国石炭工業の生きた化石」の異名を持つ。歴史ある炭鉱を利用した開灤国家鉱山公園は、一世紀余りにわたる工業遺産を文化産業へと転換したと言えるだろう。

開灤国家鉱山公園は唐山市政府の主導の下、開灤集団公司が運営している。オープンは2009年で、中国北方近代工業博覧園、老唐山風情小鎮、開灤現代鉱山工業モデル園からなっている。今回取材したのは中国北方近代工業博覧園の中にある開灤博物館。この博物館では、石炭の出来る過程、古代の採掘法などを含めた炭鉱の歴史、洋務運動による民用工業発展などを、豊富な展示品と立体的で体験型の展示方法によって、非常に分かりやすく、かつ印象的に展示している。実際に地下の炭鉱跡地を体験できる「井下探秘遊」というアトラクションや、工場跡地を利用したマジック劇場「魔力地帯（マジックエリア）」なども

以前はゴミの山だった小山からの眺め。湖は地盤沈下した炭鉱跡地だった

犠牲者全員の名前が刻まれた記念壁は映画『唐山大地震』にも登場する

オープン予定だ。

生態文化産業

南湖生態公園

生態文化産業の主要プロジェクトは、唐山市南部に広がる南湖生態公園だ。公園の面積はおよそ30平方キロで、公園を中心として開発中の南湖生態城（エコシティ）の計画総面積は105平方キロにも及ぶ。公園内にある小山から周囲を眺めると、清らかな水をたたえる大小の湖が点在し、道の両脇は深い緑に覆われており、すがすがしい風景が広がっている。

しかし驚いたことに、すっかり市民の憩いの場所となったこの公園は、実はほんの数年前までは悪臭漂うゴミの山と、地盤沈下した炭鉱跡地に地下水や雨水のたまったどぶ池だったという。この公園は、いわば100年余りの工業発展による負の遺産を、都市の品位を高める優れた自然環境資源へと生まれ変わらせたのである。

公園が完成したのは2009年5月。1年足らずという短期間で、都市のイメージダウン要因だった劣悪な環境を心地のよい市民の憩いの場に作り変えた。公園建設工事に携わり、現在は公園の清掃管理の仕事に就いている張超光さんは、「以前はゴミだらけで悪臭がし、雑草も生い茂っていて、誰も近づこうとしなかった。今は空気もよくなりとても環境がよくなった」と話す。それまでこの周辺で農業に従事していた人々も公園内で働いており、公園は雇用創出にも一役買っているようだ。

地震文化産業

唐山地震遺跡公園

1976年7月28日午前3時42分。唐山市をマグニチュード7・8の直下型地震が襲った。市街地は壊滅的な被害を受け廃墟と化し、死者約24万人という20世紀最大の地震災害となった。

その地震から35年。廃墟から立ち上がった唐山市は、現在では地震の傷跡を感じさせないほどの見事な復興を遂げている。甚大な被害をもたらした大地震は、同時に唐山市の人々に大きな精神的財産も残してくれた。地震後に中国全土から寄せられた救援を忘れない「感恩」（恩を感じる）の精神は、唐山を象徴する言葉になっている。

「感恩」の精神とともに、唐山市は地震被害と復興の記録も後世にしっかり伝えていこうとしている。その象徴が唐山地震の震源地に立つ唐山地震遺跡公園だ。ここは唐山機車車両工場の跡地に作られた公園で、敷地内には地震で傾いたり倒壊したりした工場建物がそのまま残されている。

高さ約9メートル、長さ300メートル以上に及ぶ地震記念壁には約24万人の犠牲者の名前が刻まれ、見るものに地震被害の大きさを静かに訴えかけてくる。同公園内にある中国・唐山地震博物館には、被害状況を再現したレプリカ展示のほか、貴重な被災後の写真、震災後の復興の道のりなどが展示されている。

日本も今年3月に未曾有の大地震を経験した。中国・唐山地震博物館の参観中は、東日本大震災の甚大な被災状況を連想し、胸がつまって直視できない場面もあった。

しかし同時に、見事に復興を遂げた現在の唐山市と重ね合わせて、今から30年後に同じように立ち直った日本の被災地を想い描くこともでき、必ず復興できるという希望の光を見たようで力強くも感じた。唐山の教訓は、未曾有の震災から立ち上がった貴重な先例として、日本の震災後復興にとっても学ぶところがあるだろう。

（写真はすべて筆者写す）

地震で傾いた工場施設。地震被害のすさまじさを今に伝える

灤州古城
唐山灤県が進める一大文化産業プロジェクト

本誌日本語専門家　勝又あや子

唐山市の管轄県である灤県は三千年の歴史を持つ古城。灤県は今、灤州古城という歴史文化産業プロジェクト開発に県を挙げて取り組んでいる。狙うのは、文化産業を突破口にした内需主導型経済成長モデルへの転換だ。

三千年の歴史を持つ古城のテーマパーク

灤県は北京から北東に約220キロの距離にあり、唐山市と秦皇島市の間に位置する。遼代に築かれた歴史ある都市で、古くは灤州と呼ばれ、1913年に中華民国により州制が廃止されるまでは、現在の唐山市なども含めた地域全域を指した。後に唐山市などが分離され、残りの地域が灤県となった。古来からの灤州の中心部は現在の灤県に位置する。

灤州は河北省張家口に発し渤海に注ぐ灤河のほとりにあり、20万年前の原始社会から人類がここで生活した。遼代からは州が設けられ、金、元、明、清など多くの王朝の統治下に入り、26の民族がこの地に暮らした。風光明媚な景勝地としても知られ、清の康熙帝や乾隆帝など18人の皇帝が合計38回滞在した。

灤州古城のモデルエリアにある巡灤府

灤州古城（古い都市）をテーマにした巨大観光施設。3万ヘクタールという広大な敷地面積に、灤州の城門や鐘楼、鼓楼などを含むシンボル的な建築物を再建し、明・清代の北方中国の街並みを再現する。宿泊・飲食施設や各種商店のほか、民間芸術文化のパフォーマンスや民俗文化体験のできるアトラクションも用意され、さながら古城テーマパークといった趣だ。敷地内に建設される住宅の販売も予定され、不動産開発プロジェクトの側面も持つ。2010年に着工し、2012年の完成を目指している。

すでに完成したモデルエリアの街並み

文化産業を突破口に経済成長モデル転換

灤県共産党委員会の盧宏秋書記は、「文化産業を突破口にして、投資・輸出・消費の順だった経済成長モデルを、消費・投資・輸出の順へと変えていく」と話す。観光産業で消費を刺激し、文化産業を新たな成長ポイントへと育てることで、経済成長モデルを輸出・投資主導型から消費が経済成長をけん引すると内需主導型へと転換していくと考えだ。同時に、灤県の知名度と影響力アップ、人々の資質向上も目指す。「灤河流域にある28の県・市のうち、『灤』の字がついているのは灤県だけ。この灤河をテーマにして特色あるる文化産業を育て、灤河文化復興のブランドにしていきたい」と意欲を示す。

北京と秦皇島の間に灤州古城を置くことによって、北京から秦皇島・北戴河へと向かう目的地直行型のピンポイント観光を、複数の逗留ポイントのある観光路線へと変えることを狙う。北京と秦皇島・北戴河の間で素通りされていた灤県に観光客の足を引き止め、たくさんお金を落としてもらい、灤県経済の活性化を図ることも期待されている。

実際の投資開発を行うのは雲南楚雄匯通房地産開発有限公司だ。古鎮（古い村）や古城をテーマにした観光開発の実績があり、これまでに雲南省で少数民族の彝族をテーマにした彝人古鎮・孔子と儒教文化をテーマにした石羊古鎮を開発し、現在は重慶市で長寿をテーマとした長寿古鎮の建設を進めている。古鎮や古城観光地の開発は、雲南省の麗江古城、安徽省の鳳凰古城、浙江省の烏鎮（西柵）など主に南部に集中しており、北部では山西省の平遥古城を除くとまだほとんど空白地帯と言ってよい。灤州古城はまさにこの空白を埋める形になる。雲南楚雄匯通の呉玉勝董事長は「灤州古城は単なる観光地ではなく、商業・文化・観光・居住の総合体。食べる・泊まる・行く・遊ぶ・買う・楽しむという観光の六大要素を満たす」と語る。

すでに完成し一般に公開されているモデルエリアを訪ねると、巡灤府と扁額のついた建物の前でチャルメラや太鼓の演奏に迎えられた。通りにはもう開業している商店やバーも一部ある。来年の全面オープン時には、5スタークラスのホテ

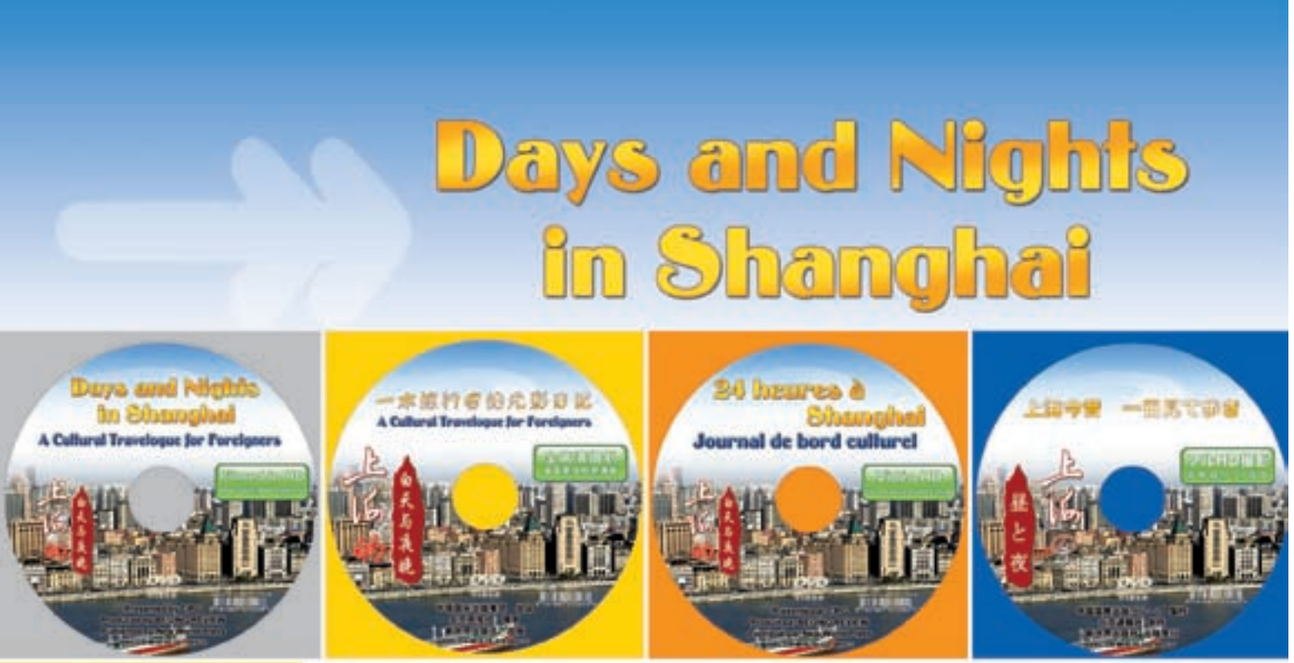
ルや民宿、各種店舗が軒を連ね、廟会（縁日）や民俗文化をテーマにしたイベントが行われるようになるという。タイや韓国のレストランなども営業が予定され、国際色も豊かになりそうだ。

古代・伝統文化と現代生活との融合

古代文化や伝統文化と現代生活との融合も灤州古城の大きなテーマだ。モデルエリアでは、毎晩「祭火大典」と呼ばれるアトラクションが行われている。これは、契丹民族文化をテーマにして、古代北方遊牧民族の火を祭る行事を再現したもの。このアトラクションはすでに地元住民の格好の娯楽となっており、毎晩多くの人々が集まってくる。儀式を再現したパフォーマンスが終わると、老若男女が次々に飛び出してきて踊り始め、あっと間に何重もの踊りの輪がかがり火を囲んだ。誰もが慣れた手つきと足取りで踊っていて、このアトラクションが地元住民にすっかり定着している様子がうかがえた。

文化産業はテーマパークや博物館といった「箱」を作るだけでは成り立たない。そこで働く人や消費する人がいて初めて息吹が吹き込まれ、活きた産業になる。管理モデルの構築や人材育成、対外宣伝など課題も多いようだが、続々と輪に加わり満面の笑顔で踊り続ける人々の姿は、完成後の灤州古城の盛況を想像させるに足るものだった。

契丹民俗文化をテーマにしたアトラクション「祭火大典」（写真はすべて筆者写す）



上海今昔 一日見て歩き

多言語DVDで解説する上海百年の歴史

新視点で歩く上海24時

上海の魅力を60分に凝縮

中国国際出版グループ 製作

新世界出版社 出版発行

北京週報社 撮影制作

注文先：(8610)68994980 68994118

(8610)13001192201

http://www.pekinshuho.com

Beijing Review

China's National English News Weekly

Beijing Review is China's only national news magazine in English. Launched in March 1958, *Beijing Review* reports and comments on the country's social, political, economic and cultural affairs, policy changes and latest developments. It also offers in-depth analysis on major regional and international events, and provides consulting and information services.

Zinio Digital Price: $1.20
Save 29% off the Cover Price: $1.70
52 Issues for $32.00
Save 49% off the Cover Price: $62.40
Website: zinio.bjreview.com

Available on the zinio™

WWW.BJREVIEW.COM
BEIJING REVIEW